



図書館 めくるくん通信

図書館 ☎ 69♦3706

図書館のこぼれ話

～え?!図書館で福袋?～

読書週間イベントの「本の福袋」。これは売り物ではなく貸し出し用です。本のタイトルがわからないよう隠しておくため、中身は借りた人だけのお楽しみ!

今年はどうな本があるのかな? 素敵な本との出会いがありますように♪



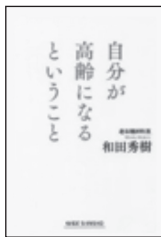
図書館に入った本

毎月たくさんの本やCDが入るよ!
一部を紹介するね♪



『自分が高齢になるということ』
和田 秀樹/著 新講社

高齢になれば避けられない「ボケ」を受け入れ、幸せな長生き老人を目指す考え方を説く。



『鶴亀横丁の風来坊』
鳥羽 亮/著 講談社
『大人は泣かないと思っていた』
寺地 はるな/著 集英社
『咳をしても一人と一匹』
群 ようこ/著 カドカワ



『絶景の城めぐり 2018』
JTBパブリッシング



『生まれたときからせつない動物図鑑』
ブルック・バーカー/著 ダイヤモンド社



『残業の9割はいらない』
本間 浩輔/著 光文社



『よい匂いのする一夜 あの宿この宿』
池波 正太郎/著

※当館製作。ダイジー図書は本を読むのが困難な方に貸出する録音図書です。

貸出中の場合もありますので、本が見当たらない時は
お気軽に職員にお尋ねください。

水族館で歴史の勉強

■幕末展

夏休みは子供たちがたくさん来るので、それに合わせて一般的な水族館では子供向けのイベントをして集客の目玉とするのが普通です。しかしどういわけか竹島水族館では「幕末展」という展示会を開催していました。内容は「幕末の志士たちになんだ生物の展示とその人物や歴史背景などの解説」です。水族館で歴史の展示会。初めての試みでした。

■歴史好き飼育員鈴木

展示テーマの発案者で実行人(竹島水族館では発案者が展示を担当し展示生物の管理も全てします)は入社2年目の鈴木君です。水族館飼育員は幼い頃から生き物一筋の人が多く中で、彼は歴史も好きで魚図鑑ではなく歴史の本を親に買ってもらっていったそうです。展示内容は幕末の志士、例えば坂本龍馬であれば鉄砲を持っていたので「テップウエビ」というエビを展示、西郷隆盛は薩摩藩の出身なので「サツマカサゴ」という名のカサゴを展示と



館長 小林龍二

竹島水族館
☎ 68♦2059

■強引なる生物選定
いういたって単純な意図でした。しかし人物になんだ生物はそれほどいないので、桂小五郎は長州藩出身だったため「チョウハン」という魚、吉田松陰は大福が好物だったので「マンジュウヒトデ」というヒトデを展示するという。こうなると、かなりの強引なるこじつけ感が気になってきて、逆にどこまで人物と生物をこじつけて展示しようとするのかという鈴木君の苦肉の策に興味が出てきて応援しました。展示区画は6区画。最低6種類を集めてパネルを作って紹介しなければいけません。ひたすら悩む鈴木君。

最終的に土方歳三に「オニオコゼ」、岡田以蔵は「カエルアンコウ」とい

うメンバーで展示を強行。こうなるような生物でも強引に理由づけすればいいのではないかと思えてきますが、展示はなかなかの反響でした。展示をする場所や歴史を絡めた展示をするという奇抜な考えが凄いとテレビや新聞の取材も来しました。水族館で仕事をしていると生き物ばかり見つけてそれを取り巻く世界に浸ってしまっている中でしかアイデアが浮かばなくなりますが、広い視野でいろいろなることを考えると、特段変わった生き物や人気の生き物を必死に集めずとも面白くて関心する展示ができてお客さんが楽しんでくれます。他のスタッフも、おいおい、鈴木君、そんなテーマで大丈夫かよ、と不安がっていました。今回は大成功。鈴木君の一人勝ちとなりました。